

四 占領地への独立付与問題

1 ビルマ

780

昭和18年1月14日 大本営政府連絡会議決定

「占領地歸屬腹案」

付記 昭和十八年一月十四日、大本営政府連絡会議

用資料

「占領地歸屬腹案ノ説明」

占領地歸屬腹案

一、占領地ノ歸屬ニ關シテハ左ノ基準ニ依リ之ヲ定ム

(イ) 大東亞防衛ノ爲帝國ニ於テ確保スルヲ必要トスル要衝

並ニ人口稀薄ナル地域及獨立ノ能力乏シキ地域ニシテ

帝國領土ト爲スヲ適當ト認ムル地域ハ之ヲ帝國領土ト

シ其ノ統治方式ハ當該各地域ノ傳統民度其ノ他諸般ノ

事情ヲ勘案シテ之ヲ定ム

(ロ) 従來ノ政治的經緯等ニ鑑ミ之ヲ獨立セシムルコトヲ許

容スルヲ大東亞戰爭遂行並ニ大東亞建設上得策ト認ム
ル地域ハ之ヲ獨立セシム
(ハ) 獨立及領土編入ノ時期ニ付テハ諸般ノ情勢ヲ考慮シ之
ヲ決定ス

二、右ニ基キ差當リ歸屬腹案ヲ決定スルコト別紙第一ノ如ク
其ノ條件ヲ概ネ別紙第二ノ如ク豫定ス

別紙第一

| 備考 | 地域 | 將來ノ歸屬 | 備考 |
|--|-----|----------------------------------|--------------------------|
| 泰國ノ失地恢復ニ付テハ昭一七、五、九決定『タイ軍ノ「ビルマ」進撃ニ伴フ對泰措置ニ關スル件』ニ依ル | 緬甸 | 「シヤン」諸州、「カレンニ」州ニ付テハ別紙第二中一、ノ(二)参照 | 「ミンダナオ」ニ付テハ別紙第二中二、ノ(二)参照 |
| 追テ定ム | 獨立國 | 獨立國 | (二)参照 |
| 三、其他 | | | |

獨立ノ態様及條件

(付記)

占領地歸屬腹案ノ説明

昭和一八、一、一四

一、緬甸

二、占領地歸屬腹案ノ説明 昭和一八、一、一四

(一) 帝國トノ關係

(イ) 軍事 帝國トノ間ニ共同防衛ヲ約セシメ兵力ノ駐屯、

軍事基地使用及設定等ヲ認メシメ特ニ軍事的

結合ヲ鞏固ナラシム

緊密提携ヲ約セシム

(ロ) 外交 緊密協力ヲ約セシム

(ハ) 経済 (シヤン) 諸州、「カレンニ」州ニ付テハ特別ノ取扱ヲ

爲ス

二、比律賓

(一) 帝國トノ關係

(イ) 軍事 帝國トノ間ニ共同防衛ヲ約セシメ兵力ノ駐屯、

軍事基地使用及設定等ヲ認メシム

(ロ) 外交 緊密提携ヲ約セシム

(ハ) 経済 緊密協力ヲ約セシム

(二) 前項ノ外「ミンダナオ」ニ付テハ更ニ特別ノ措置ヲ執

占領地諸地域ノ歸屬決定ノ基準ニ關シテハ深ク既往ノ實歷ニ顧ミ且將來ノ趨勢ヲ稽ヘ殊ニ大東亞戰爭ノ目的ニ鑑ミ帝國ノ存立及東亞ノ安定ニ對スル禍根ヲ芟除シ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全スルト共ニ世界ノ平和ニ寄與スルノ國是ヲ根本トシ之ヲ實際ニ適用スルニ當リテハ軍事的、政治的、經濟的其ノ他各般ノ要請ヲ綜合シ且各地域諸般ノ實情ヲ篤ト考慮ニ入れ各々其ノ所ヲ得シムルヲ本旨トイシ特ニ大東亞防衛ノ爲帝國ニ於テ確保スルヲ必要トル要衝竝ニ人口稀薄ナル地域及獨立ノ能力乏シキ地域ニシテ帝國領土ト爲スヲ適當ト認ムル地域ハ之ヲ帝國領土トシ又從來ノ政治的經濟等ニ鑑ミ之ヲ獨立セシムル事ヲ許容スルヲ大東亞戰爭遂行竝ニ大東亞建設上得策ト認ムル地域ハ之ヲ獨立セシメ而シテ統治方式竝ニ獨立ノ態様、條件及時期ニ付テハ諸般ノ事情ヲ勘案シテ定ムルヲ適當トス

然レトモ本件ハ戰爭指導上ヨリスルモ極メテ機微且重大ナ

ル問題ナルヲ以テ之レカ發表及實行ノ時期ヲ慎重決定スルコト必要ニシテ又事ノ性質上情勢ノ推移ニ依リテハ變更スルコトアルヘキハ當然ナリトス

前記ノ趣旨ノ下ニ差當リ決定スヘキ緬甸及比律賓ノ歸屬腹案理由ヲ略述スルニ左ノ如シ

一、緬甸

緬甸ハ西暦一八八六年完全ニ英國ノ支配下ニ歸シタル以前ニ於テハ政治的ニ獨立ノ地位ヲ有シ又一九三七年以後

印度ヨリ分離シテ英帝國內ニ於ケル準自治領的地位ヲ認メラレタルモノナルカ一般ニ獨立ノ希望ヲ有シ且概ネ自治能力アリ而シテ帝國ノ立場ヨリスレハ緬甸ハ大東亞防衛上西方ノ要衝ニ當ルヲ以テ帝國トノ間ニ特ニ軍事的結合ヲ強固ナラシムル要アル次第ナルカ右ノ如キ事情及特ニ作戰開始以來緬甸民衆ノ帝國ニ對スル積極的協力ヲ篤ト考慮ニ入レ適當ノ時期及條件ノ下ニ獨立ヲ許容スルコトハ帝國ノ公正ナル態度ヲ實證スルノミナラス緬甸民心ヲ益々帝國ニ收纏スル效果大ナルト其ノ印度民衆ニ及ボス政治的影響等ニモ鑑ミ大東亞戰爭遂行及大東亞建設上得策ト認メラルルヲ以テ將來之ヲ獨立國タラシムルヲ

當トス而シテ帝國トノ關係ニ付テハ外交經濟ニ關スル提携協力ノ外特ニ軍事的結合ヲ強固ナラシムルコト必要ナリ尙「シャヤン」諸州及「カレンニ」州ハ從來他ノ英領緬甸諸地域ト異ナリ緬甸議會制定法ノ適用範圍外ニ在リテ緬甸總督ノ直轄下ニ各土侯ノ施政ヲ認メラレタル特殊ノ地域ナルニ鑑ミ又同地方土侯及民衆ノ緬甸治下ニ入ルヲ喜ハサル實情ヲ考慮シ特別ノ取扱ヲ爲スヲ適當トス

二、比律賓

比律賓ハ夙ニ獨立ノ要望強ク自治能力アリ米國ハ一九四六年七月四日ヲ以テ獨立ヲ認ムヘキコトヲ既ニ約シ居ル等ノ政治的經緯アリ一方之ヲ帝國ノ領土トシテ帝國自ラ其ノ統治ノ任ニ當ルトキハ帝國ノ負擔煩累ヲ著シク増スコトトナルヘク又實質的ニ帝國ノ勢力下ニ在ラシムルコトハ領土ニ編入セストモ其ノ地理的地位等ニ鑑ミ實際上可能ナルヘキヲ以テ適當ノ時期及條件ノ下ニ帝國ニ於テ之ヲ獨立ヲ許容スルコトハ大東亞戰爭遂行及大東亞建設上得策ト認メラルルニ依リ將來之ヲ獨立國タラシムルヲ適當トス而シテ帝國トノ關係ニ付テハ軍事、外交、經濟ニ關スル提携協力ノ外特ニ「ミンダナオ」島ニ付テハ同

四 占領地への独立付与問題

781

島ノ軍事的、經濟的重要性ニ鑑ミ帝國ノ把握強化ニ付特

別ノ措置ヲ執ルコトアルヲ保留スルコト必要ナリ

~~~~~

昭和18年1月14日 大本營政府連絡會議決定

「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ緬甸獨立施策ニ關ス

ル件」

付 記 昭和十八年一月十三日付、大本營政府連絡會議用資料

「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ緬甸獨立施策ニ關スル件說明」

大東亞戰爭完遂ノ爲ノ緬甸獨立施策ニ關スル件

第一 方 针

大東亞戰爭完遂ニ資スル爲速ニ緬甸ノ獨立ヲ許容スルト

共ニ新緬甸ヲシテ眞ニ帝國ト緊密一體戰爭完遂ニ協力セシム

第一 要 領

一 獨立許容

(イ)「バーモ」ヲ中心トシテ直ニ獨立準備委員會ヲ設置

セシメ速ニ獨立準備ヲ進捗セシム

(ロ)獨立國家トシテノ緬甸ノ彊域ハ現緬甸行政區管轄(羅ナ)

セシメアル區域トシ「シヤン」諸州及「カレンニ」

州ハ之ヲ除外ス

(ハ)緬甸ハ緬甸民族ヲ主體トシ印度人其他異民族ヲ協和的ニ抱擁スル國家トス

(二)政體ハ將來緬甸人自體ニ於テ之ヲ決定セシムルモ國政ノ運用ヲ强力簡素ナラシムル如ク政治機構ニ付特別ノ考慮ヲ加ヘシム

(ホ)獨立許容ノ時期ハ遲クモ本年八月一日ト豫定ス

(ロ)獨立後我方諸施策ノ運用ニ當リテハ獨立許容力有名無實ナリトノ印象ヲ與ヘサル如ク留意シ特ニ緬甸官民ノ創意ト責任トヲ尊重スルモノトス

二 戰爭協力

緬甸ハ獨立後帝國ト共ニ對米英戰爭協力ニ徹底セシメ差當リ戰爭協力ノ重點ヲ戰爭必需物資ノ供出、治安維持ノ強化、交通ノ圓滑化ニ置カシム

之カ爲獨立ニ際シ米英ニ對シ宣戰セシムルト共ニ戰爭完遂ノ爲軍事上、政治上、經濟上帝國ト完全ナル協力

ヲ爲スモノナル旨盟約セシム

### 三 將來ノ曰緬關係

更新緬甸ヲシテ帝國ヲ盟主トスル大東亞團結ノ結成分子トシテ軍事、外交、經濟等ニ關シ帝國ト緊密ノ關係ヲ保持スルコトヲ盟約セシムル爲日緬間ノ基本關係ヲ律スル條約ヲ締結スルコトヲ豫期ス

備考 本件ハ今後狀勢ノ推移等ニ依リテハ變更スルコトアルヘシ

### (付記)

大東亞戰爭完遂ノ爲ノ緬甸獨立施策ニ關スル件說明

昭和一八、一、一三

一、帝國ノ企圖スル大東亞新秩序ノ建設カ萬邦共榮ノ道義ニ基クモノナルコトハ畏クモ宣戰ノ 大詔ニ昭カル所、  
帝國力既ニ數次ニ亘リ緬甸獨立ニ關シ示唆ヲ與ヘタル經緯ニモ鑑ミ適當ノ機會ニ於テ之力獨立ヲ許容スルコトハ敢テ論議ノ餘地無カルヘク、貽サレタル問題ハ唯其ノ時機ノミナルカ之力爲荏苒日ヲ曠シウスルノ結果萬一此等民心ノ帝國ヲ離ルルカ如キコトアランカ敵側策謀ノ激化

ト相俟チ逐次大東亞圈内不安定ノ情勢ヲ招來スルニ至ルヘシ

二、緬甸ハ大東亞共榮圈確保ノ爲ノ右翼ノ據點トシテ帝國ノ最モ強固ナル把握下ニ在ラシムヘキ所、而モ逐次切迫スル敵側反攻ヲ豫期セハ苟クモ同地域民心ノ把握ニ虛隙ヲ與フルカ如キコトアランカ忽チ敵側ノ乘スル所トナルヘキハ必然ナリ、之ニ反シ帝國カ今ニシテ「バーモ」長官以下緬甸民衆ノ今次作戰開始以來ニ於ケル皇軍ヘノ絕對協力ト熱烈ナル反英獨立ノ念願トニ應ヘテ明確且早期ニ其ノ獨立ヲ許容スルニ於テハ緬甸獨特ノ民族性ニ鑑ミ飽ク迄帝國ニ對スル協力ノ實ヲ擧クヘク之ニ依リ帝國ハ大東亞共榮圈右翼據點ノ確保ヲ完カラシメ得ヘキノミナラス帝國ノ明快ナル措置ハ我公正ナル態度ヲ實證スルト共ニ更ニ印度獨立問題ニ對スル英國ノ遲疑逡巡振リト比較シ由來政治的經濟的ニ反英感情ニ於テ緬甸民衆ト共通心理ニ在ル印度民衆ノ反英獨立運動ヲ刺戟シテ其ノ政治的效果ハ恐ラク偉大ナルモノアルヘシ  
故ニ帝國ハ準備ノ關係ヲモ考慮シ成ルヘク速カニ遲クモ本年八月一日即チ緬甸行政政府成立一周年記念日迄ヲ目途

トシテ獨立ヲ許容シ敵側大反攻ニ先チ一層之力把握ヲ強化スル如ク努ムルヲ可トス

此ノ場合緬甸ノ獨立能力ハ未タ必シモ十分トハ云ヒ得サルモノアルヘシト雖帝國今後ノ施策ト援助ノ如何ニ依リテハ十分之ヲ補ヒ得ヘント思惟ス

### 三、本獨立我カ勢力下ニ在ル爾他民族ノ獨立運動ヲ刺戟ス

ルニ至ルヘキコトハ一應考慮ヲ要スヘシト雖モ朝鮮ニ對シテハ内鮮一如皇民化ノ原則ヲ以テ之ニ臨ミ東印度現住民ニ對シテハ「衷心帝國ノ施策ニ協力シ其ノ實績ノ向上ヲ見ルニ於テハ原住民ノ福祉ト發展トノ爲帝國ハ十分ナル理解ヲ以テ之ヲ指導シ其ノ地位ノ向上ヲ圖ラントスルモノナル」旨ヲ以テ之ニ對スルニ於テハ必シモ大ナル考慮ヲ要セサルヘク、比島ニ對シテモ今後其ノ對米依存觀念ヲ完全ニ拂拭シ眞ニ帝國ニ對スル協力ノ實ヲ舉クルニ於テハ緬甸ニ準シ我カ盟約ヲ實現セントスルモノナルヲ示唆スルニ於テハ比島民衆ノ奮起ヲ生起シ却テ其ノ對日協力ノ昂揚ヲ見ルヘキモノナルヲ確信ス

四、新生緬甸ノ領域ハ現行政府管轄區域トシ「シヤン」諸州及「カレンニ」州ハ其ノ民族ノ歴史ヨリ考へ更ニ同地域

土侯及住民ノ熱望モアリ之力領域ニ編入スルコトヲ避ケタリ、而シテ緬甸人ニ對シテモ右ノ分離ハ惡影響ヲ與フルコトナキヲ現ニ觀察シテアリ、又其ノ國家ハ緬甸民族ヲ以テ其ノ主體トナスコト固ヨリナリト雖モ異民族ヲモ其ノ所ヲ得シムル如ク協和的ニ之ヲ抱擁スル國家ト定メタリ

而シテ印度人ト緬甸人トノ關係ニ關シテハ從來ヨリノ經緯ニ鑑ミ特ニ考慮ヲ要スヘシトハ雖モ印度民衆ニ對スル好影響ヲ與ヘ以テ印度ニ對スル施策ニ資セシムル目的ヲ以テ協和國家ノ一分子トシテ取扱フヲ適當ト思惟シ更ニ印度人ノ緬甸ニ於ケル特ニ<sup>(アマ)</sup>協濟的地位ニ鑑ミ兩者ノ關係ヲ緩和シツツ緬甸構成分子タラシムルハ却テ緬甸國ノ運營ヲモ圓滑ナラシムル所以ナリ

五、帝國ト緬甸トノ關係ハ大東亞戰爭全面的協力遂行ヲ以テ最大ノ目的トナシ戰爭間ニ於ケル主要ナル軍事、外交、經濟等ニ亘リ先ツ基本的關係ノミヲ律シテ速カニ獨立ノ實ヲ舉ケシメ以テ一ハ緬甸民衆ノ要望ニ應ヘ一ハ政治的效果ヲ舉クル如ク定メタリ

而シテ兩國間關係ノ細部ニ關シテハ爾後適當ナル機會ニ

之ヲ律スルヲ可トスヘシ

態別冊ノ如シ

782

昭和18年3月10日 大本營政府連絡會議決定

「緬甸獨立指導要綱」

付記一 昭和十八年三月十日付、陸軍省、海軍省、外

務省、大東亜省、内閣申合せ

〔緬甸獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ關スル申合セ〕

二 昭和十八年二月二十四日付、政務局第五課作成

〔緬甸獨立指導要綱ニ關スル若干ノ考察〕

緬甸獨立指導要綱

第一 方 針

一、八紘爲宇ノ皇道ニ基キ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シムル

ノ大義ニ則リ帝國輔導ノ下努メテ緬甸ノ創意ト責任トヲ

尊重シツツ大東亜共榮圏ノ一環タル新緬甸國ヲ生成ス

而シテ新緬甸ヲシテ先ツ速ニ帝國ト緊密一体大東亜戰爭

完遂ニ協力シ得ル物心兩面ノ態勢ヲ整備セシム

第二 指導要領

別冊

三、獨立準備ノ目標ト爲スヘキ緬甸國及日緬關係ノ基本的形

緬甸國及日緬關係ノ基本形態

五、獨立準備間ヨリ現行政府長官「バーモ」ヲ以テ新緬甸國ノ指導者タラシムル如ク諸般ノ施策ヲ進ムルモノトス  
六、獨立ノ時期ハ昭和十八年八月一日ト豫定シ其ノ準備完了ハ概ネ六月下旬ヲ目途トス  
七、獨立ニ際シ米英ニ對シ宣戰セシム

八、獨立ト共ニ締結スヘキ日緬間ノ條約ハ必要ノ最少限ニ止ム

四、現地軍司令官ハ中央ト密ニ連絡シ其ノ指導下ニ「バーモ」ヲ中心トシ所要ノ人員ヲ以テ獨立準備委員會ヲ編成セシメ先ツ建國ノ精神ヲ確立シ次テ獨立後ニ於ケル新緬甸國ノ形態、組織及獨立ヘノ轉移ニ伴フ諸般ノ施策等ヲ立案審議セシム

## 第一 建國ノ理念

シテノ名實ヲ備ヘシムルニ在リ

一、大日本帝國ヲ盟主トスル大東亞共榮圈ノ一環トシテ道義ニ基ク新緬甸國ヲ建設シ以テ世界新秩序ノ創造ニ寄與ス

### 第二 國家構成

七、帝國ハ緬甸國ニ對シ專任ノ特命全權大使ヲ派遣駐劄セシム

二、國体及政体ハ努メテ緬甸人自体ノ發意ニ俟チ之ヲ決定スルモ政体ニ就テハ指導者國家ノ形態ヲトランシム

三、領域ハ全緬甸ヨリ「シヤン」諸州及「カレンニ」州ヲ除外シタル地域トス

「シヤン」諸州及「カレンニ」州ノ歸屬ハ別ニ定ム

四、國民ハ緬甸民族ヲ主体トシ領域ニ在ル諸民族ヲ協和的ニ抱擁シテ之ヲ構成ス

而シテ印度人ニ對スル緬甸國籍ノ附與ハ前項ノ趣旨ニ基キ緬甸國ノ選擇スル所ニ依ル

日本人ハ緬甸國民タルコトナシ

五、國名、國旗、首都ハ主トシテ緬甸側ノ發意ニ依リ之ヲ定ム

### 第三 日緬關係ノ大綱

但シ議會ヲ設ケタル場合ニ於テモ之力爲國家代表ノ國務施行ヲ阻害セサル如ク留意ス

又政黨ノ分立抗爭ヲ戒ム  
六、帝國ノ對緬施策ノ要ハ緬甸國ヲシテ努メテ緬甸國人ノ創意ト責任トニ依リ眞ニ大東亞共榮圈ノ一環タル獨立國ト

八、帝國ハ緬甸國政府内ニ少數精銳ナル日本人ヲ配置シ之カ指導ニ任セシム  
右日本人ハ緬甸國官吏トセス

### 第四 國政

九、政治機構及之カ運用ハ努メテ強力簡素ナラシムルヲ方針トシ國家代表ノ下ニ行政、司法ノ兩機關ヲ置キ當分ノ間國家代表ハ行政機關ノ長官之ヲ兼ヌ  
立法ハ國家代表之ヲ行フ

一〇、國民參政ノ範圍及形態ハ緬甸人ノ意志ヲ尊重シ之ヲ定ム

重要國務ノ諮詢機關トシテ參議府(假稱)ヲ設クルコトヲ  
得

## 二、治外法權ハ之ヲ設ケス

但シ日本人ニ對シテハ緬甸人ニ比シ不利ナラサル待遇ヲ  
附與ス

## 三、外交ハ帝國ニ緊密提携セシム

### 第五 軍事

一、帝國トノ間ニ軍事上完全協力ヲ約シ帝國軍隊ノ爲一切  
ノ便宜ヲ供與ス

所要ニ應シ帝國軍隊ノ爲ノ施設等ヲ擔任ス

二、緬甸防衛ニ必要ナル所要ノ陸海軍ヲ保有ス

但シ兵力量及編制ノ決定ハ實質的ニ帝國之ヲ指導ス

緬甸國軍ハ戰時ノ用兵作戰ニ關シ夫々在緬帝國陸海軍最

高指揮官ノ指揮ヲ承ク

### 第六 財政、經濟及交通

一、經濟ハ大東亞經濟建設ノ計畫ニ從ヒノ一環トシテ緬

甸國ノ主權下ニ於テ公正自由ナル活動ニ依リ之カ振興ヲ  
期ス

但シ帝國側ハ之ニ所要ノ援助ヲ與ヘ又大東亞建設上特ニ

必要ナルモノハ帝國ノ施策ニ順應セシムル如ク所要ノ措  
置ヲ講ス

二、金融ニ關シテハ資金ノ交流、決済方法、換算率等ニ付  
帝國及爾他ノ地域トノ協力的体制ニ於テ之ヲ整備ス  
發券機構ヲ整備シ新ナル通貨制度ヲ確立ス但シ之カ實施  
ノ時期ハ諸般ノ情勢ヲ考慮シテ別ニ定ム

## 三、財政ハ速ニ自立セシムル如ク指導ス

四、交通及通信ハ緬甸國ノ主權下ニ置クモ重要ナルモノニ  
關シテハ帝國ノ特別ナル要請ヲ認メシメ特ニ作戰用兵ニ  
支障ヲ來ササル如ク措置ス

五、緬甸國ト他地域トノ交通及物資ノ交流ハ大東亞ヲ通ス  
ル計畫ニ從フモ其ノ要領ハ當分ノ間概ね現狀ヲ維持ス  
但シ爲シ得ル限り緬甸國人ヲ之ニ參加均霑セシム

六、敵產ハ大東亞戰爭遂行上及大東亞經營上帝國ニ於テ把  
握スルヲ必要トル特殊且重要ナルモノ以外ハ之ヲ緬甸  
國ニ移讓ス

### 第七 「シャン」「カレンニ」地區ト緬甸トノ關係

八、帝國軍ニ於テ現ニ軍政ヲ實施シアル「シャン」及「カ  
レンニ」地區ニ對シテハ差當リ依然軍政ヲ續行スルモ緬

#### 四 占領地への独立付与問題

甸國トハ現在ノ密接ナル關聯性ヲ破壊セサル趣旨ノ下ニ

左ノ如ク施策ス

- 1、兩地域ノ自由ナル出入ヲ認ム
- 2、物資ノ交流ヲ自由ナラシメ互ニ關稅等ヲ徵收セス
- 3、本地區ニ於テハ緬甸ニ於ケルト同一ノ通貨ヲ使用ス
- 4、交通、通信等ハ努メテ緬甸ニ於ケル企業体ニ經營セシム

#### (付記一)

緬甸獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ關スル申合セ

昭和一八、三、一〇

陸軍省

海軍省

東亞務務

內閣

一、大使  
純外交

帝國商事ノ保護ニ關スル事務

帝國臣民ニ關スル事務

移植民、海外拓殖事業ニ關スル事務

文化事業ニ關スル事務

二、海軍最高指揮官

緬甸國海軍軍備及之力用兵ニ關スル事項

三、陸軍最高指揮官

其ノ他ノ事項

以上ノ業務實施ニ方リテハ相互關連事項ニ就キ密ニ協議スルモノトス

#### (付記二)

緬甸獨立指導要綱ニ關スル若干ノ考察

(目次省略)  
外務省政務局第五課

昭和十八年二月二十四日

一、戰時中ト戰後ノ區別

獨立緬甸ノ國家機構及帝國ノ施策ハ英領時代ニ比シ變リ

榮エスル事最モ肝要ナル處本指導要綱ニ依レハ帝國ハ軍

事、經濟、政治、外交、交通、通信、通貨制度等重要ナ

ル殆ト總テノ分野ニ於テ實質的支配權ヲ掌握シ緬甸人ヲシテ待望セル所謂緬甸ノ獨立ハ期待ニ反シ獨立ノ實ニ達セストノ懸念及不平ヲ懷カシムル惧レ無キニ非ス、殊ニ

「バーモ」ハ骨ノアル人物ニシテ易々諾々ニ服從スル代物ニ非ザル事ヲ留意ス可シ、本要綱ハ戰時中ト戰後ヲ區別セサル如キハ兩者ハ自ラ寬嚴大ニ異ナルモノアル可シ、

緬甸カ大東亞戰ノ最前線ニ住スル限り戰時中殊ニ獨立ノ初期ニ於テハ帝國ノ補導ト援助ヲ要スル事大ナルモノアルハ必然ナルモ戰後ハ緬甸ハ實質的ニモ完全ナル獨立ヲ享有シ得可キ事ヲ緬甸人ニ信セシメ戰時ト戰後ニ差異ア

ルヲ明カニシ前途ニ大ナル希望ヲ懷シムル事特ニ肝要ナルモノト信ス即チ帝國ノ實質的把握ハ戰爭遂行上ノ必要タル暫定的措置ニ外ナラズ緬甸ノ占ムル最モ重大ナル軍事的地位ニ鑑ミ右ハ已ム無シトノ印象ヲ與フルコト然ル可シ

ノ形態ヲ特ニ考慮スルコト必要ナリ。

### 三、憲法

獨立緬甸ノ憲法ヲ如何ニスルカ明ナラス、立法ハ參議府ヘノ諮詢ヲ經テ國家代表之ヲ行フトアルモ右立法ハ憲法作成ヲ含ムモノナリヤ否ヤ不明ナルヲ以テ憲法作成ノ機關時期手續等ヲ考慮スルノ必要アル可シ、尙何レニセヨ、帝國憲法ノ理解深キ有能ナル法律顧問ノ必要アリ

本綱カ將來ノ政體ハ努メテ緬甸人自體ノ發意ニ俟チ之ヲ決定スルヲ主義トストナンナカラ(アマ)地方ニ於テ立法機關ノ性格ヲ有スル議會及政黨ヲ認メストナスハ其間恰モ若干矛盾アルモノノ如シ

### 三、議會

從來ノ緬甸議會ハ「ユーモラス」ナ和氣靄々タル雰圍氣裡ニ議論スルヲ享樂スルト共ニ各種族、各黨派間ノ争ヒ鬱憤ノ捌口タル機能ヲ果シタリ、然ルニ獨立緬甸ニ於テ議會ヲ許容セラレ斯特セハ國民ハ何トハナシニ寂寥ヲ感ス可ク國民間ニ疑心暗鬼生シ、從來鬼角一族郎黨ヲ偏重シ家族内閣(Family Cabinet)トノ非難アリタル「バーモ」政權ニ對スル不滿增大スル虞レアル一方敵側ハ「バーモ」尙帝國力實質的ニ把握ストハ形式的ニ緬甸人力掌握スル事ヲ意味スルモノト思ハレ、此ノ意味ニ於テ各施設機構

ノ獨裁政府ハ日本ノ傀儡ニ過キストノ惡宣傳ヲ行フ可シ

抑々從來緬甸人ノ政治的向上ガ參政權ノ發達ナル經路ヲ  
經過シ來レル沿革ハ看過シ得サル所ニシテ將來モ議會ハ  
上意下達ノ機構タルト共ニ國民カ希望ヲ表明スル下意上  
達ノ機構トシテ機能ス可シ殊ニ總力戰下ニ於テ全國民ヲ  
シテ進ミテ政府ニ支持協力セシムル事最モ緊要ナル秋ニ  
際シ國民ニ對スル關係上モ議會ヲ何等カノ形ニ於テ存續  
セシムル事然ル可シ、但シ議會ノ實質上ノ權限ハ大ナル  
ヲ要セズ、尙一院制ニテ足ル可ク又多數官選議員ヲ置ク  
事可ナル可シ

#### 四 政黨

從來ノ如キ小黨分裂シ政權ノ爭奪ニ終始セル諸政黨ハ有  
害無益ニシテ然カモ獨立緬甸ノ全國民ノ目的ハ單一ナル  
可キヲ以テ種々ノ政黨ノ存在理由ナク此ノ意味ニ於テ從

來ノ如キ政黨ヲ廢止スルハ正當ナリ但シ政治ノ遂行ハ國  
民的背景ヲ必要トスルヲ以テ政黨ヲ全廢スルハ考ヘモノ  
ナル可ク全政黨ヲ打ツテ一丸トセル強力ナル一政黨(新  
生緬甸ノ理想ニ邁進スル國民組織)ヲ組織シ新政權ノ支  
持及國力推進ニ貢獻セシムル事適當ナル可シ

#### 五 外交機關

帝國カ實質的把握ヲ爲シツツモ獨立緬甸ヲシテ變り榮ア  
ラシムル爲ニハ外形的ニ華麗ナルモノ、例ヘハ外交使節  
ノ交換等ハ考慮ニ値ス、大東亞共榮圈内諸國家間ノ外交  
關係ヲ如何ニスルカノ根本問題アルモ當分ハ帝國ト緬甸  
間ニ外交使節交換スルヲ以テ足ル可ク其他ノ諸國トノ間  
ニハ領事官交換ノ可否ヲ考フ可シ、尙現地ニ於テハ外交  
機關ノ設置ヲ希望セサルヤノ趣ノ處其理由ヲ知リ度ク理  
由ノ如何ニ依リ考慮スヘキ問題ナリ

#### 六 承認

國際法上ノ一國家トシテノ緬甸ノ承認問題アリ、日本及  
盟邦ノ緬甸承認ハ何時如何ナル形式ヲ以テ行ハル可キカ  
ヲ考慮シ置ク必要アリ

#### 七 「シャン」州「カレー」州ノ歸屬

要綱ニ依レバ領域ハ全緬甸ヨリ「シャン」諸州及「カレー  
ニ」州ヲ除外セル地域トス後者ノ歸屬ハ別ニ定ムトアリ、  
「シャン」州等ニ當分軍政ヲ行フモ永久ニ軍政ヲ行フモ  
ノニ非ルヘク、將來ノ地位、歸屬如何ハ重要ナル問題ナ  
リ、「シャン」州等ヲ以テ獨立ノ國際法上ノ國家トナス

ハ適當ナラス、サレバトテ日本領土トナスハ聖戰ノ大義名分ニ徵シ面白カラス、結局ハ將來ニ於テ緬甸領域中ニ包含シ、緬甸國家内ニ於テ特殊ノ地位(或ハ緬甸トノ聯邦制度)ヲ認ムルコト適當ナルヘシト思考セラル、緬甸民族ノ所謂解放ハ道義上モ政策上モ「シャン」人等ヲ除外スルモノニ非ルヘクスケテ獨立緬甸ノ領域ヨリ「シャン」州及「カレニ」州ヲ永久ニ除外スル旨宣言スルハ果

シテ適當ノ措置ナリヤ否ヤ疑無シトセス由テ「當分」ナル語ヲ追加シ「緬甸ノ領域ハ當分全緬甸ヨリ「シャン」諸州及「カレニ」州ヲ除外シタル地域トス」トナスコト然ルヘシト思料セラル斯ケセバ將來ノ情勢ニ應シ適宜「シャン」州ノ歸屬ヲ決シ得ヘシ

#### 八 國體

國体トハ歴史的ニ自然ニ生成セルモノヲ指ス觀念ナリトセハ獨立緬甸成立後將來國体ヲ決定シ得可キヤ否ヤノ疑惑アリ、國体ハ國家成立ノ當初ヨリ自然ニ生成ス可キモノニシテ將來特定ノ時期ニ國体ヲ決定スルハ倫理的歴史的ナル觀念タル國体ノ本質上如何ヤトモ思考セラル國体ハ政体ト根本觀念ヲ異ニスルヲ以テ獨立宣言ト時ヲ同フ

シテ宣明スル事適當ナルヘク、少クトモ要綱中第一指導要項ノ三ニ記載セラレタル建國ノ精神ノ確立ノ際ニ國体ヲ考慮スル事順序ナルヘシ

緬甸ハ六十年前迄獨立王國ニシテ王朝時代ハ一切ノ國民生活、政治、宗教、文化、藝術、經濟、交通等ハ國王ヲ中心ニ行ハレ由來緬甸人ノ如キ宗教心深キ人種ニハ神祕的ナル君主政体適スルモノノ如ク又大東亞共榮圈内ニ於テ真先ニ獨立ヲ達成スル國家トシテ出來得可クバ帝國ト相似タル國体ヲ有セシムル事可ナル可キモ、王朝ノ子孫ハ王朝末期ノ大虐殺事件ニ依リ殆ト絶ヘタル趣ニシテ今日王國ヲ形成スルニ足ル人物アリヤ否ハ國体竝ニ政体決定上ノ重要問題タル可ヘシ

#### 九 發表ノ形式

王朝時代ニアリテハ英邁ナル緬甸諸王ハ雲南泰「アツサム」等ニ華カナル帝國主義的侵略ヲ行ヒタルカ、獨立ヲ失ヒテヨリ日尙淺ク、光榮アル歴史ノ記錄ハ緬甸人ヲシテ大ナル民族的、人種的誇ヲ有セシムルニ至レリ、夙ニ緬甸人ハ物質的利益ニ括淡ナルモ名譽心、虛榮心高キヲ以テ聞ヘ、例ヘハ些細ナル侮辱名譽毀損等ヲ理由ニ殺人

#### 四 占領地への独立付与問題

783

ヲモ辭セス、又、一般ニ緬甸人裁判官カ名譽、信用ニ對スル犯罪ニ對シテハ頗ル重キ刑罰ヲ課シ財物ニ對スル罪ニ對シテハ輕微ナル刑罰ヲ課スルニ依リテモ其一端ヲ窺ヒ得可シ、斯ル民族性ニ徵シ獨立ノ宣言、條約ノ締結、獨立緬甸ノ機構、施策ノ企畫及運用ニ當リテハ形態乃至發表ノ形式等ニ最モ慎重ナル考慮ヲ拂ヒ緬甸人ノ名譽心ヲ考慮スルコト必要ナルヘシ

外務大臣 谷 正之  
大東亞大臣 青木 一男  
内閣書記官長 星野 直樹  
緬甸方面軍司令官 河邊 正三  
緬甸方面軍々政監部 縣村 武亮  
總務部長兼參謀副長 磯村 武亮

緬甸行政政府側

内務長官 モンミヤ

財務長官 テーモン

緬甸防衛軍司令官 オンサン少將

國ニ對スヘシト前置キシ別紙第一ノ通述ヘタリ

一、東條總理大臣ヨリ緬甸ノ獨立ニ關スル帝國政府ノ意圖ヲ

「日緬ノ關係ハ道義ニ基ク精神的連鎖ヲ主トスルモ建國ニ當リテノ承認ニ關聯シテ兩國間ノ基本關係ヲ律スヘキ條約ノ締結ヲ豫想スル次第ナリ

東條總理大臣ヨリ左ノ通り附加セリ

「日緬ノ關係ハ道義ニ基ク精神的連鎖ヲ主トスルモ建國ニ當リテノ承認ニ關聯シテ兩國間ノ基本關係ヲ律スヘキ條約ノ締結ヲ豫想スル次第ナリ

尚承認ノ上ハ速ニ大使ノ交換ヲ行ヒ度シト存ス」

終ニ當リ東條總理大臣ヨリ左ノ通述ヘタリ

「以上申述ヘタルコトノ中帝國ニ於テ公表スルコト以

列席者左ノ通

帝國政府側

外ハ機密ニシテ特ニ宣戰ニ關スル件ト獨立ノ時期トハ  
絕對ニ祕匿致シ度シト存ス」

二、之ニ應ヘ「バーモ」長官ヨリ別紙第一ノ趣旨ヲ陳述セリ

（別紙第一）

萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安  
ンセシムルハ帝國不動ノ國是ナリ

帝國ハ此ノ國是ニ基キ緬甸民衆多年ノ宿望タル新緬甸ノ獨  
立ヲ認ムルモノニシテ茲ニ帝國ノ意圖ヲ披瀝スルヲ得ルハ  
本大臣ノ最モ欣快トスル所ナリ

第一、建國ノ精神ニ就テ

新緬甸國ノ建設ニ當リ帝國ノ最モ關心ヲ有スルハ其ノ建  
國ノ精神トス

新緬甸國ハ完全ナル獨立國タルヘク其ノ建國ノ精神ハ固  
ヨリ緬甸自體ノ決定スヘキモノナリト雖帝國ハ新緬甸國  
カ大東亞共榮圈ノ一環タル道義ニ基ク新國家ニシテ世界  
新秩序ノ創造ニ寄與スルモノタルヘキヲ確信ス

第二、國家ノ構成ニ就テ

新緬甸國ノ領域ハ曩ニ現行政府管轄區域ナリト聲明セシ

カ茲ニ更ニ「シャン」「カレンニ」地區以外ノ全緬甸ヲ  
モ包含スルモノナルヲ明言ス

國民ハ緬甸民族ヲ主體トシ領域内ノ諸民族ヲ協和的ニ抱  
擁スルノ趣旨ニ依リ決定センコトヲ望ム

政治機構ノ決定ニ方リテハ特ニ國政ノ運用ヲ強力簡素ナ

ラシムルコトヲ希望ス

第三、日緬基本關係ニ就テ

帝國ハ新緬甸國カ其ノ創意ト責任トニ於テ速ニ獨立國ノ  
實ヲ具フルコトヲ冀念シ全幅(幅カ)ノ支援ヲ爲スヘシ新緬甸國  
亦大東亞共榮圈ノ一環トシテ政治、軍事、外交、經濟等  
ノ各般ニ於テ將來ニ亘リ帝國ト密ニ提携協力スヘキコト  
ヲ期待ス

第四、對米英宣戰及戰時態勢確立ニ就テ

新緬甸國ハ獨立ト同時ニ米英ニ對シ宣戰スルト共ニ速ニ  
戰時ニ即應スル諸般ノ態勢ヲ整備シ以テ帝國ト緊密一體  
戰爭完遂ニ邁進センコトヲ切望ス

第五、軍事ニ就テ

新緬甸國ハ作戰上ノ要請ニ鑑ミ軍事上帝國ト完全ニ協力  
シ帝國軍隊ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スルト共ニ緬甸國軍ハ

戰時ノ用兵作戦ニ付在緬帝國陸海軍最高指揮官ノ指揮ニ  
服セシメンコトヲ望ム

## 第六、經濟ニ就テ

新緬甸國ノ經濟ハ大東亞經濟建設ノ一環トシテ其ノ主權  
ノ下ニ於テ公正濫剥タル活動ニ依リ之カ振興ヲ期セラレ  
度帝國ハ之ニ所要ノ援助ヲ與フルノ用意ヲ有ス  
而シテ戰爭遂行上必要ナルモノニ付テハ帝國ノ施策ニ特  
ニ順應スルノ措置ヲ講センコトヲ望ム

## 第七、獨立ノ準備ニ就テ

以上ノ諸點ヲ了承シ新緬甸國ノ首班タルヘキ貴下ハ速ニ  
獨立準備委員會ヲ設ケ獨立ニ關スル諸般ノ準備ヲ進メン  
コトヲ望ム

而シテ獨立ノ時期ハ八月前後ト豫定シ之カ準備ハ概ネ六  
月末迄ニ完了スヘキヲ希望ス

尙細部ニ關シテハ現地軍司令官ヨリ承知セラレ度

惟フニ一國ノ創成ハ容易ノ業ニ非スト雖モ緬甸民衆一千餘  
萬ノ熱望ハ必スヤ之ヲ玉成スヘク之カ指導ノ重責ヲ双肩ニ  
擔フ貴下等ノ本懷又之ニ過クルモノナカラン  
宜シク帝國ノ意圖スル所ヲ体シ有ユル障礙ヲ克服シ以テ建

國ノ偉業ヲ完成シ相携ヘテ戰爭完遂、大東亞ノ新秩序建設  
ニ邁進セラレンコトヲ切望シテ止マス

昭和十八年三月二十二日

大日本帝國內閣總理大臣 東條 英機(署名)

(別紙第一)

(譯文)

閣下

余ハ緬甸及其ノ獨立ニ付閣下カ只今述ヘラレタル御聲明ヲ  
深キ感謝ノ念ヲ以テ拜聽セリ、閣下カ襄ニ帝國議會ニ於テ  
我々ニ緬甸獨立ノ約ヲ與ヘラレテ以來全緬甸民衆ノ歡喜ト  
感謝ハ譬フルニモノ無キ有様ナリキ、之ハ單ニ歡喜ト感謝  
ノ念タルニ止マラス、信賴ノ念ナリ一日本ノ指導ハ東亞ノ  
開放ヲ齎ストノ大ナル信賴ノ念ナリ、更ニ感謝ト信賴ニ加  
フルニ、緬甸民衆ハ日本カ東亞ノ再建ノ偉業ニ當リ示シタ  
ル現實主義ニ共鳴シ居ルモノナルコトヲ附言致度シ  
只今閣下ハ自ラ余ニ大ナル責任ヲ課セラレタリ、余ハ之ヲ  
大ナル名譽ト考フ、余ハ微力ヲ盡シテ其ノ負託ニ添ハソコ  
トヲ期ス、又余ハ閣下ノ聲明ヲ上述ノ感謝及信賴ノ念ヲ以

テ了解スルニ全力ヲ盡スヘシ

終ニ「ビルマ」全民衆カ閣下ニ對シテ有スル厚キ尊敬ト信  
賴ノ念ヲ披瀝スルヲ誠ニ欣快トスルモノナリ、

### (付記)

東條總理大臣「バーモ」緬甸行政府長官會見ニ於ケル

非公式會談ノ摘要

昭和十八年三月二十二日

於 總理大臣官邸

奥村書記官 記

東條總理大臣ヨリ緬甸獨立ニ關スル帝國政府ノ意圖ヲ示達  
シ之ニ對シ「バーモ」長官ヨリ之ヲ了承シ微力ヲ盡ス旨ノ  
應答アリタル後非公式ナル(informal and off record)談話ノ  
交換アリタルカ其ノ要領ヲ左ニ摘錄ス

「バーモ」長官ヨリ昨秋東條總理ヨリ與ヘラレタル書翰、

總理夫妻ヨリ「バーモ」長官夫妻ニ贈ラレタル紀念品及  
緬甸ノ空襲被害者ニ對シ五十萬圓ノ見舞金ヲ送ラレタル  
コトニ對シ深甚ナル謝意ヲ表シ且又來朝以來ノ厚遇、殊  
ニ宿舎ニ就テハ總理自ラ檢分スル等ノ配慮ヲ拂ハレタル

コトニ對シ深厚ナル感謝ノ辭ヲ述フ

總理ヨリ敵ノ盲爆ニ依ル緬甸民衆ノ被害ニ對シテハ誠ニ  
同情ニ堪ヘス、之因ヨリ戰爭遂行ノ爲ニハ言ハバ已ムヲ  
得サル所ナルヘク、行政府ニ於テモ之カ救濟ニハ遺憾無  
キヲ期シ居ルコトナルヘキモ、帝國政府トシテモ及フ限  
リノコトヲ爲ス用意アル旨ヲ述フ

二、總理ヨリ一行來朝以來或ハ多少奇異ニ感シタルコトアラ  
ンカトモ思考ス、夫レハ次ノ三點ニ付テナリ

第一、日本ニ於テハ何處ニ此ノ大戰爭カ行ハレ居ルヤ分ラ  
シヌ狀態ニシテ好ク言ハバ餘裕綽々タルモノアルコト  
第二、現ニ東京ニ於テ御覽ノ通り若イ者カ路上ニモ溢レ居  
ルコト

第三、一行ノ行事ニ付 皇室ニ對スル儀事並ニ明治神宮及  
靖國神社等ニ對スル參拜ヲ第一ニシアルコト

之ナリ

第一及第二ノ點ニ就テ言ハバ日本ハ未タ人的的ニ充分  
ノ餘裕アルコトヲ示スモノナリ、第三ノ點ハ日本カ 皇  
室ヲ中心トスル精神主義ヲ中心トスルモノナルコトヲ示  
ス所以ナル旨ヲ詳述ス

「バーモ」長官之ニ對シ入京以來明治神宮、靖國神社ニ詣テ日本ノ眞ノ姿ニ文字通り開眼ノ喜ヲ得タル思ヲ爲セリ、我々ハ日本ニ來ルコト三十年ノ遲キニ失シタルヲ痛感スルモノナリ、若シ我々カ三十年早ク日本ニ來リタランニハ緬甸ノ地位ニハ隔世ノ變動アリタルナラント思フト述フ

尙總理ヨリ人的資源ノ問題ニ付緬甸カ其ノ面積日本ニ比シ大差無キニ反シ人口ハ僅ニ千六百萬ナルハ一考ヲ要スル旨ヲ述フレハ「バーモ」長官ハ緬甸ノ人口增加ヲ計リ之ヲ最大資源ノ一ニナサント欲スト述フ

三、總理ヨリ日本ハ今ヤ米英相手ニ乘ルカ反ルカノ戰爭ヲ遂行中ナリ、只日本及緬甸ハ永遠ニ生キ抜ク使命ト運命トヲ有シ單ニ一九〇〇年代ニ生存スレハ足ルト言フモノニ非ス、日本ハ滿洲事變ニ於テ滿洲國ノ獨立ヲ達成セシメ、支那事變ニ於テ支那ヲシテ米英ノ壓迫ヨリ脱シ其ノ本然ノ姿ヲ再現セシメタリ、又今回ノ大東亞戰爭ニ於テハ緬甸ノ獨立ヲ計リ且泰國ニ付テハ米英ノ羈絆ヲ脱シ其ノ本然ノ姿ニ立還ラシメントス、將來ノ比律賓ニ付テ亦然リトス、而シテ日緬兩國ハ東亞ニ於ケル兄弟ノ國トシテ相

提携シ大東亞新秩序實現ノ爲共ニ生キ共ニ榮ユルヲ期スヘキモノナルコトヲ力說ス

四、更ニ總理ヨリ日本ノ精神主義ニ就テ敷衍シ、例ヲ日本軍ノ卓拔ナル點ニ取り説明ス、即チ米英ハ物ニ於テハ多少有利ナルヤモ知レサルカ戰ハ人之ヲ行フナリ、人トハ何ゾヤ、夫レ即チ精神ナリ、米英ハ現ニ緬甸ノ對岸印度ニ於テ百萬ノ兵ヲ有ス、又一方支那領ニ於テハ數十萬ノ兵アリ、日本ハ又緬甸ニ於テ數十萬ノ兵ヲ有スル次第ナルカ、余(總理)ハ常ニ日本軍ノ兵數ニ〇(零)ヲ一つ附ケ足シテ丁度敵ニ對スル實力ヲ現ハスコトトナルト思考ス  
歐洲ノ戰爭ニ於テハ一戰鬪アル毎ニ何萬何千ノ捕虜ヲ出スヲ例トスルモノ日本軍ニ就テハ斯様ノコトハ夢想ダモシ得ス、日本ノ兵士カ捕虜ニナルコトアリトセバ、ソレハ會々戰傷ノ爲人事不省トナリタルカ爲ニ過キシシテ彼等ハ陛下ノ爲刀折レ矢盡キタル後ト雖四肢ノ動ク限り戦ヒ續クルモノナリ、實ニ日本軍ハ精神的訓練ヲ主トス、加フルニ優秀ナル統帥アリ、英國軍ヲ緬甸ヨリ僅々數ヶ月ニシテ席捲シタルコトハ諸君ノ現實ニ目擊セラレタル所ナルヘシ

五、總理ヨリ此ノ如ク東亞ノ諸民族、殊ニ日本ニ於テハ精神ヲ重ンズルナリ、之東亞ノ習慣及傳統ニシテ之ニ依リ吾人ハ結合ス、同シ血ヲ分ケ合ヒ居ル間柄トモ言ヒ得ヘシ、例ヲ宗教ニトレバ、日本ニハ神アリ佛アリ、緬甸ニハ佛教普及シ居レリト聞ク處（「テーモン」ヨリ我々ハ皆佛教徒ナリト述フ）此ノ佛教ヲ通スルノミニテモ日緬間ニハ共通ノ基礎アルナリ、只米英ハ之ヲ嫌フ、緬甸ハ久シキニ亘リ英國ノ壓制ニ苦シミ來レルカ其ノ精神ハ未タ死セス其ノ芽ハ猶存スヘン、之ヲ培ヒ之ヲ育テ之ヲ動員スルコト肝要ナルコトナリ

只一ツ遺憾ナルハ永年ノ米英ノ壓迫ノ結果吾人ハ此ノ席ニ於テモ互ニ語ルニ英語ヲ用ヒ居ル有様ナリ（「バーモ」一行強ク同感ノ意ヲ表ス）今後ハ互ニ努力シ、即チ日本人ハ緬甸語ヲ習ヒ緬甸人ハ日本語ヲ習フコトシ度

六、（總理ヨリ外務、大東亞兩大臣ニ對シ何カ話ヲセラルルコトナキヤト促シタルニ對シ、外務大臣ハ別ニ話スコトナシト述ヘ）大東亞大臣ヨリ左ノ趣旨ヲ述フ、即チ  
大東亞大臣ヨリ米英カ我國ニ對シ壓迫ヲ加ヘ今次ノ戰爭ヲ誘發スルニ至レル原因ノ大ナルモノハ彼等カ我國ノ實

力ヲ過少評價セルコトニ在リ、日本ハ滿洲事變以來十年、支那事變起リテヨリ三、四年ヲ經テ其ノ經濟力ヲ蕩盡セリト判斷セルコト之ナリ、余（大東亞大臣）ハ當時企畫院ニ在リ我國ノ經濟統制ヲ掌リタル次第ナルカ、日本ノ統制ハ米英カ思ヒタル如ク經濟逼迫ノ爲行ハレタルモノニハ非ス、支那事變ニ續キ來ルヘキ國際情勢ノ如何ナル變轉ニモ備ヘンカ爲我國ノ豫算、物資及勞力ヲ擧ケテ基礎產業及國防產業ノ爲ニ集中センカ爲ニ行ハレタルモノニ他ナラス、斯クシテ我國ノ生產力ハ最近計劃的發展ヲ遂ケ日滿支ノ資源ヲ動員スル其ノ生產力擴充計劃ハ昭和十八年度ニ於テ其ノ第一期計劃ヲ完了セントス、之ニ加フルニ大東亞戰爭開始以來我國ハ南方ニ於ケル世界的資源ヲ領有スルニ至リ益々不敗ノ態勢ヲ確立スルニ至レルコトヲ説明ス

七、總理ヨリ之ニ關連シ戰前米英ノ宣傳ハ日本ノ經濟的脆弱性ヲ專ラ強調シ日本ハ開戰後三ヶ月ニシテ參ルヘシ等ト言ヒ立テタルカ現實ハ正ニ御承知ノ通ナリト述ヘ「バーモ」長官大キク之ニ肯キ、戰前英米ノ緬甸及印度等ニ於ケル宣傳ハ民衆ノ耳目ヨリ日本ノ真相ヲ遮蔽セントスル

#### 四 占領地への独立付与問題

コトニ集中セラレ居タル次第ニシテ今回來朝以來感得スル所多大ナルモノアルコトヲ述ヘタリ。

(以上)

784

昭和18年7月31日

青木大東亞大臣より  
在ビルマ沢田大使、在タイ坪上大使、  
在中国谷大使他宛(電報)

ビルマ独立承認をタイ、南京国民政府、滿州

国に要請について

本省 7月31日後9時発

合第一五三〇號

外務大臣發合第六一三號ニ關シ

三十一日午後満華、「タイ」三國大使ニ對シ個別的ニ來訪

ヲ求メ「ビルマ」カ八月一日獨立スヘキコト及帝國政府カ

同國獨立後之ト同盟條約ヲ締結スル豫定ナルコトヲ通報ス

ルト共ニ大東亞各國ニ於テモ「ビルマ」國ヲ承認シ新ナル

大東亞ノ一員トシテ之ト緊密ニ協力シ以テ大東亞ノ結集ヲ

堅クシ行カレンコトヲ希望スル旨述ヘタル處滿洲國大使ハ

既ニ本國政府ヨリ本件ニ付「インフォーム」セラレ居ルコ

トヲ洩セルカ「タイ」華兩國大使ハ何レモ直ニ本國政府ニ

電報スヘキ旨述フルト共ニ特ニ「タイ」國大使ハ本大臣ノ希望ヲ強ク本國政府ニ申送ルヘキ旨所信ヲ披瀝セリ尙本會見ニ於テ「タイ」華兩國大使トモイ新「ビルマ」國ノ政體如何(?)國家代表及首相カ何人ナルヤ及(ハ)議會制度カ二院制度ナルヤ等ニ付キ關心ヲ示セリ

本電宛先 「タイ」、南大及滿大、「ビルマ」(後日ニスルコト)

785 昭和18年8月1日

「日本國「ビルマ」國間同盟條約」

付記一 昭和十八年六月九日付、外務省作成

「日緬同盟條約案」

二 昭和十八年六月十五日付、陸軍電報案

ビルマとの間に締結すべき条約等に関する現地軍への指示

日本國「ビルマ」國間同盟條約

大日本帝國政府及

「ビルマ」國政府ハ

日本國政府ガ「ビルマ」國ヲ獨立國家トシテ承認シタルニ因リ

兩國ハ相互ニ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ各國ト緊密ニ協力シテ道義ニ基キ大東亞ニ於ケル共同ノ建設ヲ行ヒ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ  
之ガ障礙タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

### 第一條

日本國及「ビルマ」國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲軍事上、政治上及經濟上有ラユル協力ヲ爲スベシ

### 第二條

日本國及「ビルマ」國ハ大東亞各國ノ共榮ヲ趣旨トスル自  
主的發展及大東亞興隆ノ爲ノ共同ノ建設ニ付相互ニ緊密ニ  
協力スベシ

### 第三條

本條約ノ實施ニ關スル細目ハ必要ニ應ジ兩國當該官憲間ニ  
協議決定セラルベシ

### 第四條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年八月一日即チ「ビルマ」曆三百五十五年「ワガン」月「ワクシン」一日「ラングーン」ニ於テ本書二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 澤田 廉三〔印〕  
「ビルマ」國內閣總理大臣 バー、モウ〔印〕

### (付記一)

外務省案

昭和十八年六月九日

日緬同盟條約案

大日本帝國政府及

「ビルマ」國政府ハ

大日本帝國政府カ「ビルマ」國ヲ主權アル獨立國家トシテ承認シタルニ因リ

大東亞地域ニ於ケル各國ノ自主獨立ヲ尊重シ其ノ發展ヲ實現スルト共ニ各國緊密ニ協力シテ大東亞ニ於ケル安寧ヲ確保シ共同ノ建設ヲ行ヒ其ノ福祉ヲ増進シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ

之カ障礙タル一切ノ禍根ヲ (斐タカ) 除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

### 第一條

日本國及「ビルマ」國ハ其ノ相互ノ立場ヲ尊重シツツ大東亞戰爭遂行ノ爲軍事上、政治上及經濟上有ラユル協力ヲ行フヘク之力爲當時必要ナル協議ヲ行フヘシ  
日本國及「ビルマ」國ハ必要ニ應シ隨時別ニ業務上ノ取極ヲ行フコトアルヘシ

### 第二條

軍事行動繼續中ハ陸海空ニ於テ日本國當該軍事官憲ノ必要トル軍事的措置ハ「ビルマ」國ニ依リ許容セラルヘク、右ニ關スル新ナル事項ニ付テハ豫メ兩國政府間ニ於テ相互ニ協議セラルヘシ

日本國ハ平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ「ビルマ」國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ撤去スヘキコトヲ約ス

### 第三條

必要ナル協力措置ニ付審議スル爲兩國政府代表者ハ大東亞地域各國政府代表者ト共ニ定期又ハ隨時ニ會合ヲ行フヘシ

### 第四條

前條ニ規定スル會合ニ於テハ又戰後ニ於ケル大東亞各國ノ平等互惠ヲ趣旨トスル自主的發展並ニ大東亞ニ於ケル平和安定ノ維持、防衛及共同ノ建設ニ關スル各般ノ事項ニ付協議行ハルヘシ

### 第五條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヘシ  
本條約ハ二十年間有效トス  
兩締約國ノ何レノ一方モ本條約ヲ終了セシムルノ意思ヲ右二十年ノ期間満了ノ一年前ニ通告セサル場合ニハ本條約ハ兩締約國ノ何レカノ一方カ之カ廢棄ノ通告ヲナシタル日ヨリ一年ノ期間ノ満了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有スヘシ  
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年月 日即チ 年月日 二於テ 文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

### (付記二)

日緬間ニ於テ締結スヘキ條約等ハ必要最少限ニ止ムルモノトシ其ノ範圍ハ次ノ如ク考ヘアルニ付承知相成度

一、獨立ト共ニ締結スヘキ日緬間ノ條約ハ左ノ同盟條約ノミ

## ビルマ独立に関する政府声明

トス、又附屬協定ハ之ヲ設ケズ

付記 昭和十八年八月一日発ビルマ国タキン外務大臣より重光外務大臣宛電報

### 1.前文

帝國政府ノ緬甸國承認ノ意志表示ヲナス

ビルマ独立通告文

大東亞ノ建設及安寧確保ニ關スル協力關係ヲ律シ之カ  
障礙ヲ排除スルノ決意ヲ表示ス

### 2.條文

兩國政府ハ大東亞戰爭完遂ノ爲軍事上政治上及經濟上  
完全ナル協力ヲナスコト

條約實施ノ期日其他

三、帝國軍隊ノ爲ノ便宜供與、施設ノ擔任、戰時ニ於ケル指  
揮權等作戰用兵ニ關スル事項ハ所要ニ應ジ在緬帝國陸海  
軍最高指揮官ニ於テ締結スヘキ軍事協定ニ依ルコト

三、其ノ事項ニ關シテハ努メテ事實上ノ指導措置ニ據リ  
又ハ外交上ノ往復文書ノ形式ニ據ルコトトシ正式取極メ  
ノ形式ハ之ヲ避ク



帝國ハ直ニ同國ヲ承認シ之ト同盟條約ヲ締結シ大東亞戰爭  
ノ完遂ト大東亞ノ共同建設ノ爲緊密ニ協力スヘキコトヲ盟  
約セリ

顧ルニ「ビルマ」ハ英國ノ壓制下ニ呻吟スルコト既ニ百有  
餘年茲ニ其ノ宿望ヲ達成シ獨立ノ榮ヲ擔ヒ今ヤ蹶然起ツテ  
帝國ト共ニ米英擊滅ノ共同戰線ニ立ツ之萬邦ヲシテ各々其  
ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンセシムル肇國ノ  
大精神ニ基キ東亞積年ノ禍根ヲ芟除シテ新秩序ノ建設ヲ期  
セントスル帝國ノ同慶措ク能ハサル所ナリ

今ヤ滿洲國ハ其ノ國力ヲ擧ケテ帝國ノ戰爭遂行ニ協力シ中  
華民國竝ニ「タイ」國ハ既ニ帝國ト完全ナル協力ノ下ニ共  
同ノ戰爭完遂ニ邁進シツツアルノ秋茲ニ亦「ビルマ」國ノ  
獨立蹶起聖戰參加ヲ見ルニ至リ大東亞ノ結束愈々固キヲ加

くタリ

帝國ハ是等各國ニノ提携ヲ愈々緊密リシ歐洲ニ於ケル盟邦  
ト相呼應シテ共同ノ宿敵米英ヲ擊破シ以テ道義新秩序ノ建  
設ニ邁進セハコノ期ス茲ニ帝國政府ノ所信ヲ中外ニ闡明  
ス

(文 記)

ヤハ'ンハ 一九四〇年一月後10時30分発

本 紙 一九四〇年二月前3時05分着

~~~~~

A Son Excellence le Ministre
des Affaires Etrangères Japon

Monsieur le Ministre

Comme vous le remarquerez dans la déclaration de l'indépen-

dance de la Birmanie J'ai l'honneur de porter à la connaissance

de Votre Excellence que de par la volonté du peuple la Birmanie

s'est constituée un gouvernement indépendant à entièrement

rompu ses relations avec l'Angleterre et l'Empire Anglais et a

créé l'Etat de Birmanie le premier jour de la lune ascendante de

Wagaung 1305 (année birmane) correspondant au premier jour

占領地への独立付与問題

du mois d'août 1943 (ère chrétienne) de plus l'Assemblée
Constituante de Birmanie l'a déclaré au nom de tout le peuple
birman. C'est une occasion pour vous exprimer mon vif désir de
voir se former d'amicales relations entre votre pays et l'Etat de
Birmanie. Daignez agréer Monsieur le Ministre l'assurance de
ma considération très distinguée.

Thakin Nu Ministre des Affaires Etrangères
de Birmanie

787 昭和18年8月3日 在タイ坪上大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

「」ハマ無バ等ニ關するタイ外相の新聞記録

「」ハマの反対立つも難堪

「」ハマク 一九四〇年三月前発

本 紙 一九四〇年四月前着

第111九五號(至急)

「」ハマ外相訪日機會我方ヨリ日本新聞記者共同
會見「」ハマベニシタルニ對シ又レヲ快諾本三十一日午
後「」ハマ記者交々會見行ヒタリ右會見ニ於ケル外相

談話ハ新聞通信ニ依リ御承知相成度

尙外相談話中左記三點特ニ注意ヲ要スヘシ

ビルマ国基本法につき報告

付 記 昭和十八年六月

(一)日本ノ「ビルマ」獨立許容ハ世界ニ類例ヲ見サル大事件ニシテ自分トシテモ日本政府ニ感謝ス若シ「ビルマ」獨立ノ通報ニ接シタル時ハ直ニ「ビルマ」外相宛ニ「タイ」

國政府ノ正式承認ヲ爲ス方針ナリ

(二)「ムツソリーニ」首相ノ辭職問題ニ關シ「タイ」國ハ敵

性「デマ」宣傳ニ依リ影響ヲ受ケ居ルモ「シシリー」ノ

戰局及歐洲現下ノ狀勢ヨリ見テ樞軸側ノ形勢力惡化シ居ルトハ考ヘラレス又「タイ」國ハ樞軸軍ノ勝利ヲ確信スルモノナリ特ニ本日駐「タイ」伊公使本官ヲ訪問シ今次

改變アリタルモ伊國ハ三國同盟ニ對スル義務ヲ履行スル方針ニ變リナキ旨公式ノ通告ヲ受ケタルハ欣ヒニ堪エス(政令)

(三)新領土ニ對スル政策ノ詳細ハ言明シ得サルモ「タイ」國憲法ニ依リ各民族ノ宗教ノ自由ヲ絕對ニ妨ケサルヘシ外務大臣ヘ轉報アリタシ

ビルマ國家機構に関する陸軍往復電報

ヤンゴン 8月6日後発

本 省 8月7日後着

第三號

貴電第四號ニ關シ

(一)基本法第一條ハ正式英譯文ニ於テハ

Burma shall be a co-equal member of the community of sovereign states forming the Greater East Asia co-prosperity Sphere.

ト規定シ居ル處右ハ聯盟ノ如キ法制的根據ヲ有スル主權國家ノ集合體ヲ意味スルモノニ非スシテ通俗ニ謂ハレ居ル大東亞共榮圈ナル事實上ノ觀念ヲ謂ヒ表ハシタルニ過キス緬甸ノ獨立ニ當リ我方トシテハ緬甸カ大東亞共榮圈ノ一員トシテ道義ニ基キ建設セラルヘキコトヲ強調シタル次第ニテ(東條總理ノ「バーモウ」ニ對スル示達ニモ大東亞共榮圈ノ一員トシテ建設セラルヘキコトヲ述ヘラレ居レリ)緬甸側トシテモ我方ノ主張ニ即應シ大東亞共

四 占領地への独立付与問題

榮圈ノ一員ナル觀念ヲ基本法及獨立宣言等ニモ明瞭ニ記載シタルモノナリ尙平等ナル一員ナル語ヲ用ヒ居ル處國家ハ形式的ニ平等ナルコトハ國際法ノ原則ニシテ緬甸ニ於テモ特ニ之ヲ主張シ我方ニ於テモ形式的平等ノ意味ニテ之ヲ認メアル經緯アリ

(二) 基本法前文ニ於テハ「獨立準備委員會ノ委員長及委員ハ憲法議會トシテ集合シ緬甸人民ヲ代表シ緬甸人民ニ屬スル立法主權ヲ行使シテ茲ニ基本法ヲ制定」スル旨述ヘ居レリ

第三條リ、

All powers of Government and all authority, legislative, executive and judicial are derived from the people and the same shall be exercised in accordance with the provisions hereunder.

ム規定シ第四條リ、

Burma shall be ruled over by the Head of the State who shall have full sovereign status and powers.

ト規定シアリ

第五十七條(新憲法制定ニ關スル部分)ハ新憲法制定機

關ハ直ニ緬甸國民及其ノ意見ヲ代表スル如ク組織セラルベシト規定セラレ居ル處緬甸ノ獨立カ國民ノ總意ニ依リテ宣言セラレタル經緯ニモ鑑ミ主權カ國民ヨリ發スルコトハ明カナリ唯獨立準備ノ過程ニ於テハ國體ニ關スル議論準備委員ノ間ニ沸騰シ軍側ニ於テハ之ヲ放任シ置クコト面白カラスト認メ其ノ趣旨ニテ指導ノ結果國體ノ決定ハ新憲法制定ノ際ニ讓ルコトトナリタル次第ナリ

「フルソバレン」ナル字句ハ新憲法制定ニ至ル迄ノ國家代表ノ地位ヲ強化シ其ノ獨裁的地位ヲ明カナランムル意味合ヲ以テ用ヒラレ居ル次第ニテ國家代表カ完全無缺ノ主權ヲ有スルコトヲ意味スルモノニ非ス前記基本法ノ各種規定ヲ見ルモ全權ハ人民ヨリ發シ國民代表ハ人民ニ依リテ承認セラレタル基本法ニ準據シテ其ノ權限ヲ發動スルコトナリ居ル次第ナリ(以上軍側ト協議濟)基本法英譯文空送ス(邦譯文ハ軍側ヨリ空送ス)

(付
記)
(釋註)
(1)

昭和十八、六、一五

緬甸獨立指導ニ關スル電報

内閣ノ各大臣ハ顧問官タラズシテ同院ノ議ニ列ス

六月十一日獨立準備委員會ヨリ國家機構ニ關スル答申案ヲ

提出シ來レリ其ノ要旨左ノ如シ

一、國 家

緬甸ハ完全ナル主權國ニシテ大東亞共榮團^(團カ)ヲ構成スル各

國ト同等權利ヲ有シ又國家ノ總テノ權能即チ立法、司法

行政ハ民意ニ依ルモノトス

二、國家代表(ヘツド、オブ、ザ、ステート)

緬甸ハ完全ナル主權竝ニ權能ヲ有スル國家代表ニ依リ統

治セラル

三、内 閣

内閣ハ總理大臣ヲ首班トスル各省大臣ヲ置キ各省大臣ハ總理大臣ノ推薦ニ依リ國家代表之ヲ任命シ内閣ハ全体トシテ又各大臣ハ個別的ニ國家代表ニ責任ヲトル

四、樞密院

樞密院ハ租稅、豫算、國債、普通立法、條約ノ締結等ニ關シ國家代表ノ諮詢機關トス

其ノ顧問官ノ數ハ二〇乃至二五名トシ國家代表ハ内閣ニ

諮詢タル後任命ス

五、立 法

立法權ハ國家代表ニ屬シ内閣ハ普通立法ニ關シテハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル後又非常立法ニ關シテハ直接國家代表ニ上申ス

六、司 法

司法機關ハ概ネ現狀ノ通トシ裁判權ハ外交官等ノ國際法上ノ治外法權ヲ除キ一般ニ之ヲ施行ス

七、國 語

緬甸語ハ新緬甸國ノ公用語タルベシ

八、官吏任用

官吏ノ免職權ハ國家代表之ヲ有シ官吏任用委員會ヲ置キ諮詢ス

九、會計檢查

國家代表直屬ノ會計檢查院ヲ置キ會計ノ疑義ヲ匡ス

十、軍

緬甸軍ハ國家代表ニ隸シ軍事ニ關スル諮詢機關トシテ最高軍事會議ヲ置ク

其ノ議員ハ陸軍大臣、參謀總長、陸軍次官、軍務局長、

教育部長等ニ依リ構成セラル

陸軍大臣ハ現役將校ヲ以テ充當ス又軍ハ政治ニ干與セズ
二、憲法起草委員會

國家代表ハ戰爭狀態之ヲ許サバ獨立後一箇年以内ニ又之
ヲ許サザレバ戰爭終了後一箇年以内ニ憲法起草委員會ヲ
召集ス

右ノ委員ハ内閣及樞密院ニ諮リ緬甸民衆ヲ代表スルモノ
ヲ網羅シテ國家代表之ヲ任命スルモノニシテ憲法ノ起草
ニ任ジ且其ノ施行ノ時期ヲ定ム

新緬甸國ノ統治ハ憲法施行ニ至ル迄本要綱ノ定ムル所ニ依
ル

(2)

昭和十八、六、一五

緬甸獨立指導ニ關スル電報

一、國家機構ニ關シ獨立準備要員ノ提案前電ノ如シ
要スルニ國家代表ノ獨裁的機構ニシテ我ガ方ノ獨立要綱
ノ趣旨ニ概ね合致シ有ルモノト認ム
故ニ現地軍トシテ概ネ之ヲ承認スル考ヘナリ

三、豫テ我ガ方ニ於テハ總理大臣ヲシテ國家代表ヲ兼ネシム
ル如ク指導シアリタルモ此ノ點ハ委員會全員反對シアリ
テ其ノ旨正式ニ通牒シ來レリ
彼等ノ心理ヲ忖度スルニ「バーモ」ガ國家代表トナルコ
トハ自然ノ勢ナルヲ以テ

(イ) 「バーモ」ハ速力ニ自己ノ地位ヲ安定センガ爲總理ヲ
別ニ置キ成ルベク速カニ行政ノ責任ヲ負ハシムル方安
全策タルベク
(ロ) 「バーモ」以外ノモノハ彼ノ獨裁強化ヲ危懼シ努メテ
國家代表ト總理トヲ分離シ置カントスルモノノ如シ
緬甸側ガ前電ノ如ク國家代表ノ獨裁的機構案ヲ提出シ
アル以上要綱ノ趣旨トスル獨裁ノ目的ハ實質上之ヲ達
成シアルヲ以テ總理ト國家代表トヲ兼ネシムルコトノ
必要性ハ多少減少シタルガ他面「バーモ」ハ行政ノ責
任ヲ回避セントスル氣配相當濃厚ナルモノアルヲ以テ
此ノ點ヨリスルモ兩者ヲ同一人タラシムルコトヲ有利
トスベキニ依リ更ニ原案ヲ彼等ニ納得セシムルニ努力
スル考ヘナリ

(3)

森方參二電第五〇號(六、二八發)

帝國案ニ對シ緬甸側回答ノ要點ニ就テハ逐次電報セル通ナ
ルガ二十六日ヲ以テ回答全部出揃ヒタルヲ以テ前電報告ノ
通今月未頃^(未カ)主要ナル事項ニ關シ一括シテ我ガ方ノ意見ヲ提
示スル豫定ナリ

右當方回答中ノ眼目ハ最モ重要ナル左ノ三點ニ歸着スルヲ
以テ之ニ關スル中央ノ御意圖ヲ承知シ我ガ方ノ回答ヲ緬甸
側ニ受諾セシメタル後「バーモ」一行ヲ昭南ニ出發セシム
ル考ヘナルヲ以テ貴見大至急回示煩シ度

一、國家代表ト總理大臣トヲ同一人ヲシテ兼ネシムル件

本件ハ前電報告ノ通「バーモ」及其ノ他委員ニ依リ各々
其ノ立場ヲ異ニスルモ結論ニ於テ全員之ニ反對シアルモ
「バーモ」ノ獨裁的地位ヲ強化シ且「バーモ」ヲシテ自

ラ國政實施ノ衝ニ當ラシムルコトヲ主眼トシ我ガ方ノ原
案通同一人ヲシテ兼ネシムル如ク强硬ニ主張ス

二、顧問配置ヲ容認セシムルノ件

顧問ヲ入ルルコトハ緬甸側ノ希望セザル所ナルコトハ前
電説明ノ通ナルガ今一度我ガ方ノ案ヲ强硬ニ主張ス

三、敵產タル油田及之ガ施設ヲ緬甸側ニ移讓ノ件

緬甸側ハ敵產油田ノ移讓ヲ切望シ之ガ移讓ヲ受ケタル後
戰時中日本軍ニ無償ニテ貸與スルコトヲモ止ムヲ得ザル
場合ノ對策トシテ認メアルヲ以テ此ノ際名ヲ與ヘテ實ヲ
取ル如ク差當リ緬甸側ノ考案ヲ容レ敵產油田ハ緬甸側ニ
移讓シ油田及之ニ關スル諸施設ノ經營ハ戰時無償ニテ我
ガ方ニ委託セシメ戰後ニ於テハ緬甸產油ハ帝國以外ノ第
三國ニ賣却セシメザル措置ヲ講ズルヲ可トフル^(スカ)含ミニテ
我ガ主張ヲ固執セズ今後ノ研究ヲ留保スル意見ナリ

(4)

返電案

森方參二電第五〇號返

一、ニ就テハ貴案ニ同意ナリ中央トシテ強力ナル指導者國家
トシテ發足セシムル爲何レニスルモ「バーモ」カ總理タ
ルヘキコトカ當然ノ前提考ヘ居リ從テ「バ」ヲシテ國家
代表ヲ兼ネシメントスルモノナルヲ以テ此ノ點ニ關スル
當方ノ意圖ヲ明カナラシタル上貴案ヲ主張セラレ度
二、ニ就テハ今一度條理ヲ盡シテ説明シ其上更ニ緬甸側ニ於

四 占領地への独立付与問題

テ同意セサルニ於テハ一應我方ノ意見ヲ撤回シ先方ノ希望部門ニ顧問ヲ配置スルコトニ依リ之ヲ進メ將來彼等己ノ能力ヲ知リテ手ヲ舉ケ始メテ我方ニ折レ來ルヲ待ツ案ヲ採ルモ已ムヲ得サルモノト思考ス

三、ニ就テハ概ネ貴案ニ同意ニシテ「敵產油田ハ之ヲ緬甸側ニ移譲シ戰時無償ニテ我方ニ貸與ス」ノ案ニ依リ指導セラレ度

編　注　各電報冒頭に便宜的に番号を付した。

789

昭和18年8月14日

在スペイン須磨公使より
重光外務大臣宛(電報)

ビルマ政府承認に関するスペイン外相の対応
について

マドリード　8月14日前3時30分発

第八五〇號(至急)

本　省　8月17日後8時47分着

貴電合第五六四號ニ關シ

目下「サンセバスチアン」ニ避暑中ノ「ホルダナ」外相ヲ

十一日往訪シ本使ヨリ西班牙カ國民政府ヲ承認シタルト同様速ニ「ビルマ」政府承認ヲ希望スル旨申入タル處外相ハ右申入ヲ承シ「ビルマ」獨立ハ印度ニ對スル影響大ナルヘク他面比島獨立ノ時期促進ノコトトナルヘシ何レ閣僚ト篤ト相談ノ上回答申上クヘント述ヘタリ仍テ本使ヨリ「ビルマ」獨立ハ大東亞各國ヲシテ各々所ヲ得シムルノ日本ノ大東亞各民族ノ共榮ノ思想ニ基クモノニシテ他意ナク且開戦以來東亞民族ニ約束シ來リタルコトヲ實行ニ移シタルモノニシテ樞軸國ノ一トシテ西班牙モ出來得ル限り早キニ及シテ我方ト同調セラレンコトヲ切望スル旨附言シ置キタリ

790

昭和18年8月16日

在ビルマ沢田大使より
重光外務大臣宛(電報)

ビルマ独立に対する各國態度につきビルマ外

相と会談について

ヤンゴン　8月16日前11時00分発

本　省　8月16日前11時15分着

第一〇號

十四日北澤「タキン、ヌ」外務大臣ニ面會ノ節「ダブリン」

發貴大臣宛電報第一七八號ノ趣旨ニ基キ緬甸國外務大臣ヨ

リ「アイルランド」自由國外務大臣宛獨立ノ通電ヲ發スル
コト然ルヘキ旨述ヘタルニ先方ハ右様取計フヘシト答ヘタ
ル趣ナリ

尙其ノ際北澤ヨリ「ハンガリー」發貴大臣宛電報第一三三
號ニ基キ「ハンガリー」トシテハ早急ノ承認ハ困難ナルヘ
キ旨通報シタルニ同大臣ハ通報ヲ謝シタル上獨立ノ通電ニ

對スル伊太利ヨリノ回答ニハ獨立ノ承認ヲ明瞭ニ述ヘ居ラ
サルカ如何ナル譯ナリヤト問ヒタルニ付北澤良ク承知セサ
ルモ伊太利トシテハ最近ノ同國內外ノ情勢ニ鑑ミ直ニ承認

ヲ表示スルコトヲ避ケタルモノカトモ察セラルルカ何レニ
スルモ伊太利外務大臣ヨリ緬甸政府外務大臣ニ對シ正式ニ
回答シ且ツ右回答中ニ於テ緬甸國ノ繁榮ヲ祝福シ伊緬兩國

間ノ友好關係ヲ確認スル旨述ヘ居リ之ニ依リテ伊太利ハ正
式ニ緬甸國ヲ承認シタルモノト見テ差支ナク又亞爾然丁ヨ
リノ回電ニハ承認ノ旨明示セラレ居ラサルモ同國外務大臣
ヨリ緬甸外務大臣ニ對シ緬甸ノ獨立ニ關スル通電ヲ受領シ
タル旨正式ニ回答シ來リタル譯ニテ少ク共事實上ノ承認ト
見ルコトヲ得ヘシト述ヘタルニ先方ハ之ヲ首肯シタル趣ナ

リ
大東亞大臣へ轉報アリタシ

791 昭和18年9月18日 大本營政府連絡會議決定

「シヤン、カレンニ」地區ノ歸屬示達ノ件

付記一 昭和十九年、條約局作成、「大東亞諸條約締結
經緯」より抜粋

シヤン地方帰屬問題等に関するビルマ独立指
導の經緯に関する内奏資料

二 外務省作成、「外交資料」「ビルマ」「フイリビ
ン」關係（昭和二十一年一月）より抜粋

右決定に至る經緯について

● 「シヤン、カレンニ」地區ノ歸屬示達ノ件

「ケントン」州及「モンパン」州以外ノ「シヤン」諸州
「カレンニ」州並ニ「ワーリー」州ハ將來「ビルマ」國ニ編入
スル帝國政府ノ意圖ヲ速ニ示達ス

一方成シ得ル限り九月廿五日迄條約ヲ締結シ得ル様至急措
置ス

(付記一)

緬甸ノ獨立指導ニ就テ

緬甸ノ獨立指導ニ就キマシテハ去ル三月御允裁ヲ仰ギマシタル緬甸獨立指導要綱ニ基キマシテ現地軍ハ五月八日緬甸側ヲシテ獨立準備委員會ヲ結成セシメ爾來銳意之ガ準備ヲ進メテ居ルノデアリマスガ、今度ノ出張ニ於テハ日程ノ都合上蘭貢ニ赴クコトガ出來マセヌ爲現地軍參謀長ヲ「バンコック」ニ招致シテ此等ノ事情ヲ聽取シ又「バーモ」長官ヲ昭南ニ招キ獨立準備ニ關シ懇談ヲ遂ゲタノデアリマス。現地軍ノ報告ニ依リマスルト緬甸獨立準備委員ハ現在「バーモ」以下二十四名デアリマスガ何レモ多年英國ノ壓政下ニアリシ弱少民族ノ常トシテ又自由主義的思想ニ依リ教育セラレ萬事権利義務ノ觀念ヲ以テ律セントスル傾向ガアリマスル爲時ニ多少現地軍ト意見ノ一致ヲ見ザルコトモアリ之ニ加ヘテ「バーモ」ニ慊足ラザルモノ數名アリマシテ委員會ノ意見必ズシモ一致セザルコトアリ「バーモ」亦之等反對派ヲ封ジ人心ヲ收纏スル爲ニ不可能ト知リツツ故ラニ對日強硬意見ヲ吐露スル等ノコトモ生起シタノデアリマス。

然シ乍ラ現地軍ト致シマシテハ指導要綱ノ精神ニ基キ中央ノ指示ヲ体シ常ニ大キク緬甸ヲ掌握シ名ヲ與ヘテ實ヲ採ルノ根本方針ヲ堅持シ寬嚴宜シキヲ得ル如ク指導致シツツアリマシテ目下ノ處大体順調ニ進捗中ニテ概々豫期ノ時機ニハ獨立準備完成スルモノト觀察セラレマス。

從ヒマシテ私ハ「バーモ」長官ト昭南ニ於テ會見致シマシタル際篤ト緬甸獨立ニ關スル帝國ノ公明正大ナル所信ヲ披露シ獨立準備ノ速ニ完成セラレンコトヲ要望シ特ニ帝國ハ新緬甸ガ完全ナル獨立國家タルベキヲ祈念シアルヲ述べ新緬甸獨立完成ノ爲ニハ大東亞ノ諸民族ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放發展セシメントスル今次戰爭ノ完勝ヲ前提トシ戰ニ勝ツ日コソ新緬甸建國完成ノ日ナルコトヲ力説スルト共ニ帝國ハ新緬甸獨立ヲ確認シタ曉ニ於テハ適當ナル時機ニ「ケントン」「モンパン」二州ヲ除ク「シヤン」「カレンニ」地區ヲ緬甸側ニ編入ヲ考慮シアルコトヲ言明シタノデアリマス。右ニ對シ「バーモ」ハ「ケントン」「モンパン」二州ハ如何ニ處理セラルルヤト質問致シマシタノデ泰國ニ與フル旨ヲ答へ尙ホ私ハ此ノ地方ハ泰軍ノ作戰地ナルコト及泰國ガ開戰以來帝國ニ協力シアル事實ニ鑑ミ帝國トシテハ泰國ニ

報ユルノ必要ヲ説明致シマシタ所「バー・モ」ハ帝國ノ眞意ヲ十分諒解致シタ様デアリマシタ尙ホ「バー・モ」ガ後デ同行セル磯村參謀副長ニ洩シタ所ニ依リマスト「ケントン」「モン・パン」二州ヲ泰國ノ領土ニ編入スルコトセラレタル日本ノ意圖ヲ獨立準備委員等ニ諒解セシムルコトハ可能ナルモ緬甸民衆ニ了解セシムル爲ニハ相當ノ工夫ヲ要スベシトノコトデアリマシタ。

從ヒマシテ「ケントン」「モン・パン」二州ノ泰國編入問題ハ多少緬甸側ニ失望ヲ與フルコトハ豫期セル所デアリ又之ガ善後處置ハ今後モ十分注意ヲ要スルト考ヘテ居リマスガ之ガ爲緬甸獨立運動ニ大ナル支障ヲ來スガ如キコトハアルマイト存ジマス。尙「バー・モ」ハ帝國ノ眞意ヲ能ク諒解スルト共ニ緬甸ノ現狀ヲ説明シ彼ハ緬甸民衆ノ生活ヲ安定シ其ノ民心ヲ把握スルコトニ日夜苦慮シアルヲ以テ援助ヲ與ヘラレンコトヲ希望スル旨申述ベタノデアリマス。

以上ヨリ觀察致シマスルニ緬甸ノ獨立準備ハ今後尙迂余曲折ハアルモノト考ヘマスルガ帝國ノ公正ナル態度ト皇軍ノ嚴然タル存在トニ依リ概ネ所期ノ期日迄ニハ一應完成シ得ルモノト判斷致シテ參リマシタ。

(付記二)

斯クテ八月一日「ビルマ」國ハ其ノ獨立ヲ達成シ我ガ同盟國トシテ相共ニ協力シツツアリタルガ同月三十日澤田大使ハ「バー・モウ」總理及河邊軍司令官ヲ茶會ニ招キ情報交換ヲ主トシ併セテ日緬協力ノ各部面ニ付懇談シタル際「バー・モウ」總理ハ「シャン」地方等ノ歸屬問題ニ言及シ「タイ」國ニ編入セラレタル二州ニ關シテハ日泰兩國間ニ正式條約迄締結セラレタルニ「ビルマ」國ニ編入セラルベキ殘餘諸州ニ關シテハ未ダ何等發表セラル處ナク其ノ爲國民ノ一部殊ニ「シャン」州「カレンニ」州等ノ現地住民ハ其ノ將來ニ付不安ヲ感ジ動搖シツツアリ而モ「ビルル」^(マカ)

然シ乍ラ十月雨期明ケト共ニ豫想セラレマスル敵ノ空襲、地上反攻ノ激化ニ依ル人心ノ動搖ヲ考慮シ更ニ多年惡辣ナル英國ノ壓政下ニ苦シミ來ツタ緬甸人ノ通弊トシテ此ノ際總テノ點ニ於テ對當ノ權利ト体面ヲ主張セントスル傾向ヲ併セ考ヘマスルト獨立後ノ指導ノ爲ニハ更ニ一段ノ努力工夫が必要ト存ジマスノデ益々中央現地連絡ヲ密ニシ慎重對處致シ度イ考ヘデ御座イマス。

國政府トシテハ未ダ本件ニ關シ何等ノ言明ヲ爲スコトヲ得ズ甚ダ苦シキ立場ニ在ル趣ヲ強調シ日本側ニテ内定シアル

點ヲ成ルベク速ニ發表スルコトヲ承諾セラレタシト申出タ
リ澤田大使ハ直チニ其ノ旨中央ニ電報スルト共ニ同大使ノ

意見ニ依レバ偶々「ビルマ」側ニ於テハ九月二十六日以降一週間ヲ獨立祝賀週間トシテ全國的ニ各種祝賀行事ヲ催スベク準備中ナルヲ以テ本件ハ其ノ際ニ發表スルコト最モ效果的ナリト信ズル旨意見具申アリタリ

右ニ對シ中央ニ於テハ贊否兩論アリ陸軍側ハ澤田大使ノ意見ニ贊成セルモ海軍側ハ之ニ反対セリ其ノ理由トスル所ハ帝國ガ一度決定シテ右地域ヲ除外シテ「ビルマ」國ノ獨立ヲ承認セルニ未ダ幾何モ經ザルニ帝國ノ決定ヲ變更シテ右地域ノ編入ヲ認ムルハ對緬政策上我方ノ權威ヲ失墜スルノ惧アリ必シモ樂觀ヲ許サザル戰局ノ將來ヲ考フレバ右發表ヲ更ニ有效ナラシムルノ時期アルベシト云フニアリ斯クテ本件ニ關スル中央ノ意見ハ容易ニ決定セラレザリシモ陸軍側ノ贊成意見強ク遂ニ九月十八日ノ大本營政府連絡會議ニ於テ澤田大使ノ意見ノ通獨立祝賀週間ノ實施ヲ期トシテ之ヲ實行スルコトニ決定セラレタリ

792 昭和18年9月25日

「シャン」地方等ニ於ケル「ビルマ」國ノ領土ニ關スル日本國「ビルマ」國間條約

大日本帝國政府及「ビルマ」國政府ハ兩國緊密ニ協力シテ米英兩國ニ對スル共同ノ戰爭ヲ完遂シ道義ニ基ク大東亞ヲ建設スルノ不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條 日本國ハ「ビルマ」國ガ「ケントン」及「モンパン」兩州以外ノ「シャン」諸州、「カレンニ」諸州竝ニ「ワ一」地方ヲ其ノ領土トシテ編入スルコトヲ承認ス

第二條 日本國ハ本條約實施ノ日ヨリ九十日以内ニ前條ノ規定スル地域ニ於テ現ニ其ノ行政ヲ終止スベシ

第三條 本條約實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第四條 本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年九月二十五日即チ「ビルマ」曆千三百五年「ト

「ウザリン」月下弦十二日「ラングーン」ニ於テ本書二通ヲ
作成ス

大日本帝國特命全權大使 澤田 廉三〔印〕
「ビルマ」國內閣總理大臣 バー・モウ〔印〕

793 昭和19年1月15日

在ビルマ沢田大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

ビルマにおいて実施すべき重要政策につき報告

ヤンゴン 1月15日前10時00分発

本省 1月16日前10時55分着

第一七號(館長符號扱、極祕)
貴電合第二七號ニ關シ

御承知ノ通當國ニ於ケル政治産業經濟等ハ軍ノ内面指導ノ範圍ニ屬シ當館トシテハ直接關與シ居ル次第ニ非サルモ冒頭貴電御來示ノ大東亞ノ結集、戰力ノ增强及民生ノ安定ヲ目標トシテ當國ニ於テ實施スヘキ諸施策ニ關シ當方氣付ノ點左ノ通電報ス

一、當國ニ於ケル現狀並ニ緊急處理解決ヲ要スル問題ニ付テハ屢次電報等ヲ以テ報告シ居リ又過般「バー・モウ」總理

及協力大臣渡日ノ際東條總理及貴大臣ニ對シ詳細御話アリタル譯ニテ折角御考慮中ノコトト拜察スル處是等問題ハ總テ前記三大目標ニ照シ當國ニ於テ即急處理ヲ要スル問題ノミナルヲ以テ當地ニ於テ日緬人協力シ速ニ之力處理方策ノ樹立ニ努ムルコト勿論ナルモ何分現地限ニテハ解決困難ナルモノ多々有之ニ付中央ニ於テモ是非共御考究ノ上速ニ實行方御配慮相煩度

二、前記三大目標ニ依據シ當方ニ於テ特ニ重點ヲ置ク事項概ネ次ノ通

(イ)「ビルマ」國ノ獨立尊重

今後帝國ノ施策トシテ最モ緊要ナルハ雷ニ大東亞諸國諸民族ノミナラス進ンテ中立諸國及敵國側ノ帝國ニ對スル信用ヲ獲得増進スルニアリ之カ爲ニハ大東亞共同宣言ノ趣旨ヲ具現シ事實ヲ以テ帝國ノ眞意ヲ證明スルハ最モ效果的ナルコト申ス迄モナキ儀ナル處當方面現實ノ事態ニ付テ觀ルニ軍事上ノ緊急性大ナルモノアリテ免レ難キ所トハ言ヘ共同宣言ノ趣旨トハ懸隔アルモノ尠カラサルハ御推察相成ヘキ通ニシテ右ハ敵側謀略放送等ニ徵スルモ印度重慶方面ニモ専カラス惡影響ア

四 占領地への独立付与問題

ル次第ナリ仍テ出來得ル限り「ビルマ」國ノ獨立體面ヲ尊重スルコト肝要ト存ス(右ノ趣旨ニテ現地ニ於テモ努力シ居レリ)

(ロ) 軍民需ノ調整

「ビルマ」民衆ニ對シ最少限度ノ生活ヲ確保スルハ凡ユル角度ヨリ見テ喫緊事ナルハ申ス迄モナキ處之カ爲ニハ彼等ノ生活必需品就中食糧衣料住居及輸送力ニ付是非共軍需トノ調整ヲ要スル次第ニテ現地軍側ト「ビルマ」側トヨリナル合同委員會ニ於テ右調整事務ヲ處理シ居ルモ「バーモウ」總理ハ小川最高顧問ノ着任ヲ機トシ新ニ企畫局(GENERAL PLANNING、BOARD)ノ如キモノヲ設置シ軍民需ノ調整其他一般ノ企畫ヲ行ハシムルコトヲ考慮シ居ル模様ナリ(最近「ビルマ」農務省ノ報告ニ依レハ上「ビルマ」地方ノ食糧不足ハ重大問題化シ「ベンガル」州ノ轍ヲ履ム虞アリトナシ軍側ト種々協議シ居レリ)

(ハ) 生活必需品ノ現地生産力ノ增强及「ビルマ」以外ヨリノ供給增加

「ビルマ」ニ於ケル物資及輸送力ハ軍需タニ充足シ得

サル狀況ナレハ軍民需ノ調整ニ止マラス更ニ進ンテ生活必需品ノ現地生産ノ増強及「ビルマ」以外ノ地域ヨリノ供出增加ヲ圖ルコト絶對必要ナリ右ハ當國ノ深刻ナル「インフレーション」對策トシテ謂フモ刻下ノ急務ナリト存ス他地域ヨリノ供給增加ニ付テハ「バ」總理ヨリモ過般大東亞會議ニ於テ述ヘラレ又東條總理及貴大臣ニモ陳情セラレタル次第ナルカ更ニ去ル九日小川顧問ヲ加ヘタル「バ」總理、本使及軍側司令官ノ例非公式懇談ニ於テ「バ」ヨリ希望開陳アリ問題ノ要點ハ輸送力ニ懸ル譯ナルモ凡ユル工夫ヲ繞ラシ出來得ル範圍ニ於テ實現セシムル要アリト思考ス

794
昭和19年8月21日

在ビルマ北沢臨時代理大使より
重光外務大臣宛(電報)

戦後国際機構案に対するビルマ側反応について

ヤンゴン 8月21日後8時00分発
本省 8月22日後3時30分着

第七八號(館長符號扱)

十八日貴地發同盟ハ同日白鳥前大使ヲ委員長トシテ本邦ノ

官界財界言論界其ノ他各方面ノ有力者ヲ網羅スル戰後國際機構研究會ニ於テ採擇セラレタル戰後國際機構案ハ大東亞共同宣言ノ五原則ヲ基礎トシテ之ヲ世界的規模ニ擴充セルモノナルカ其ノ具體的適用ニ於テハ世界ヲ東亞歐洲及南北亞米利加ノ地域別國家「ブロツク」ニ分チ各國家「ブロツク」内ニ於テハ其ノ構成員タル各國家間ノ合意ニ依リテ指導國家（リーダーネイション）ヲ指定シ指導國家ハ統治「ブロツク」ノ構成員タル國家相互間及隣接國家「ブロツク」間ノ善隣共同防衛及互惠經濟ノ三原則ノ維持及促進ニ關スル責任ヲ負擔シ又國家「ブロツク」相互間ノ紛争ノ解決ハ指導國家全部ノ合意ニ依ルモノナル旨報シ居ル處御承知ノ通り「バーモウ」國家代表始メ「ビルマ」側ニ於テハ大東亞共同宣言其ノ他ノ機會ニ於テ我方カ隨時確認シ來タル自主獨立及互惠平等尊重ノ原則ニ信賴シ之ニ重大關心ヲ示シ居ルノミナラス小磯新内閣ニハ總理始メ植民地統治ノ經驗者多ク從テ新内閣ノ政策ハ緬甸等ニ對シテモ植民地ヲ經營スルカ如キ方針ニ傾クニ非スヤトノ杞憂ヲ抱キ居ルモノナキニシモ非サル次第ニテ（閣僚中ニモ眞面目ニ右ノ如キ杞憂ヲ口ニスル者アリ之ニ對シテハ出來得ル限り啓蒙

ニ努メ居ル次第ナリ）此ノ際我方ニ於テ從來非難シ來タレル大國主義（例へハ客年十一月ノ「スマツツ」ノ演説ノ如シ）ト大差ナキ指導國家主義ヲ表向ニ振竅スコトハ（實際問題トシテ緬甸側ヨリ自發的ニ帝國ノ指導的地位ヲ認メシム様仕向クルコトハ別問題ナルヘク緬甸側ニ於テモ事實上ニ於テハ我方ノ指導的地位ヲ認メ居ルカ如シ）緬甸側一般ニ多大ノ反響ヲ呼び起シ帝國ノ眞意ニ付無用ノ誤解ヲ抱カシムルコトナキヤヲ惧ルル次第ナリ就テハ本機構案ノ成立及其ノ發表ノ經緯等緬甸側ニ對スル應酬上ノ心得迄ニ回電相煩度シ

大東亞大臣へ轉報アリタシ

